

花のロゼット

ホワットアワンダフルワールド!

I see trees of green, red roses too

I see them bloom for me and you

And I think to myself, what a wonderful world

♪ 木々は青々としげり、バラの花は赤く色づく

僕や君のために咲く花たちを見て思うんだ

この世界はなんて素晴らしいと♪

ルイ・アームストロングのしわがれ声が印象的。名曲『この素晴らしき世界』。青空や白い雲、昼の輝き、夜の静謐、鮮やかな虹、「ごきげんよう!」と握手する人々…。「みな本当は『愛してる』』と言いたいんだ…」と曲は続きます。

樂觀的な歌詞に思えるけれど、この曲がヒットしたのは一九六七年。ベトナム戦争の泥沼で世界が最も悲觀的だった時代です。悲しく闇に閉ざさ

れた時に「この素晴らしき世界」と一体誰が言えたのでしょうか?

とここでこの歌詞、どこかで聞いた覚えありませんか? そう、創世記一章。神さまが天地万物、そして人間を造り、完成した世界を見て言われた言葉。「なんと素晴らしい!」(新共同訳では「見よ、それは極めて良かった」(二一節)。まさに、**What A Wonderful World!**)

実はこの歌詞、神さまの言葉だったのではないか? 「ここに何の良いものもない」と人が言う時も神は言う、「なんと素晴らしき世界!」「自分はなんてダメなんだ」という人に対しても神は、「あなたはなんて素晴らしい!」と。

神さまが見ている世界は、人の視線をはるかに超えています。神の高く広いまなざしをいつも心に宿す。そんな人間に子どもたちには育てほしい。**What A Wonderful World!**

(つくしだより四月号より抜粋、津田記す)